時事新報定價

時事新報は每號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價遞送料は左の如し

一號　貳錢五厘〇一ヶ月　前金五拾錢〇三ヶ月　前金壹圓四拾五錢〇六ヶ月　前金貳圓八拾五錢〇一ヶ年　前金五圓六拾錢〇月曜日休刊（此他大祭祝日年始年末等一切休刊セズ）

時事新報遞送料

一	日本國內並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津	一ヶ月	金拾三錢
二	南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國	一ヶ月	金六拾錢
三	北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸嶋	一ヶ月	金三拾錢
四	香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲	一ヶ月	金六拾五錢
五	露領浦潮斯德、清國諸港	一ヶ月	金三拾五錢

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を填塞するより各社同一の記事を掲ぐるもの寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依賴せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報社に達したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

支那日本の銀勢

左の一編は本年八月十二日刊行北支那日々新聞紙に松方伯の金貨本位論を駁して日支の銀勢を說きたるものなり日本に金本位とは固より輕卒の沙汰にして我輩の取らざる所なれば每度ろの次第を本紙上にも記したりしに今又海外にも同樣の說あります〳〵金本位の非を知るに足る可し依て其大意を抄譯して本日の社說に代ふ

過日北支那日々新聞の日本通信員が金銀問題に關する松方伯の談話なりとて報じ來りたるものを見るに文辭簡單にして詳細を知るに由なしと雖も伯が日本に金貨本位を採用せんとするの意あるは疑ふ可らず思ふに伯の議論の要點は左の二項に外ならざるが如し

第一　銀は二十年來次第に下落し今も尚は下落しつゝあり

第二　故に金は唯一の安全なる本位なり印度は既に金本位を採用したれば日本も亦其例に倣ふ可し

若しも松方伯にして英國及び其他の金貨國に行はるゝ書籍新聞紙等に現はれたる論說を聞て之に心醉したる人ならんには銀の相場が近來大に下落したりと想像するも決して怪むに足らず蓋し歐米諸洲の經濟界は極めて複雜にして殊に金銀問題と密接の關係を有して種々雜多の影響を及ぼす原動力の種類甚だ多きを以て偶ま金銀の相場に變動を生ずることあるも二者の孰れが騰貴し孰れが下落したるものか之を知ること甚だ易からず從て此問題に就ては學者政治家の議論も更に一定せざる其上に金力殆んど無盡藏とも云ふ可き富豪の輩が自家一身の利益を謀るが爲めに近來の變動を以て單に銀價下落の一因に歸し天下の人をして金價は古來一定不變なりとの說に化せしめんとて畢生の力を盡して運動するを以て遂に銀價下落の說に勢力を添へたることなれども實際に注意して二十年來金銀の歷史を調査するときは目下の變動は銀の下落に非ずして金の騰貴なりとの事實を發見すること難きにあらざる可し而して此調査を爲すには經濟社會の繁雜極りたる歐米諸洲に於てするよりも二十年前より常に銀貨單本位を守り且つ經濟界の有樣甚だ簡單にして金銀問題の眞相を抹殺し隱蔽するが如き勢力の存することなき支那日本等に於てする方遙に便利なる可し過日の論文中にも記したる如く支那日本等にては二十年前と今日とを比較して銀貨に對する諸物品の相場は毫も騰貴したるの跡を見ず即ち銀價の下落せざる明證にして松方伯が此顯然たる事實を目擊しながら尚ほ銀價下落論を主張するは如何にも解し難き次第なりと云ふ可し抑も物價表に依て通貨購買力の增減を示すは經濟學者の常に行ふ所にして金銀相場の變動を示すには是れに勝りたる良法なかる可しと雖も物價表のみにては俗人の爲めに或は少しく理解し難き恐あるを以て余は茲に誰にも分り易き樣、人民箇々の生計の費用を標準として以て銀價の下落せざる事實を明にす可し即ち余が今記さんとするは上海にて或る外國人に雇はれ居る御者（支那人）の生計に關する事實にして此者は支那の下僕及び被雇人の好き代表者と見做して可ならんと思はる同人は十七年前今の主人に雇入れられ每月墨西哥銀二十一弗を受取り其代に馬車馬一頭を馭し及び其飼養料を自辨し又自費にて馬丁一人を雇置く約束なり同人は每月馬丁の給料に三弗を拂ひ老母に二弗を贈與し殘り十六弗にて馬を飼養し又自身と妻子五人との活計を立て居れるが右二十一弗の外に何等の收入なきにも拘はらず十七年來毫も給金の不足を感じたる模樣見えず未だ一度も增給を願ひ出でたることなし彼の者の始めて雇入れられたる時即ち千八百七十六年には墨西哥銀一弗は英貨三志十片四分三に當り十六弗は即ち三封度二志三片なりしに今日は一弗銀の相場二志六片に下落し十六弗は僅に二封度に過ぎず即ち十七年前と今日とを比較すれば正しく一封度二志三片の差あるを見る可し若しも此差にして金貨論者の云ふ如く全く銀の下落より生じたるものならんには今日十六弗の購買力は千八百七十六年に於ける十弗四十仙の購買力に異ならざれば右の御者は現在の給料を以て我家族及び飼馬の食物その他の必要品を求るに當り十七年前に買ひ得たる量の三分の二をも得ること能はざる勘定にして若しも然るときは一家擧て餓死するの外ある可らざること論を俟たず然るに事の實際に於て御者が今日十六弗を以て充分に生計を立て毫も不足を感ぜざるを以て見れば則ち十七年間普通物價に對する銀の價は依然として異なることなく却て金價のみ獨り三四割方騰貴したるの事實明なりと云はざるを得ず

右は唯手近き一例を擧げたるものなれども世間に此類の事實は尙ほ甚だ多からん今日支那人民の十中八九は勞働者にして日々の賃錢に依て生計を立る者なるが若しも其賃錢の購買力に一割を減ずることもあらんには彼れ等は忽ち飢寒に迫られ非常の慘境に陷るは必然なり左れば若しも金貨論者の說の如く銀の購買力が過る二十年間に果して三割以上減少したるならば正しく其割合に支那勞働者の賃錢は騰貴したる筈なり然るに支那の事に就て最も經驗の確なる人士は皆異口同音に右の時期に勞働者の賃錢の變動せざることを證明せり東洋の銀貨國にては二十年來人民の賃錢は更に騰貴せざれども是れが爲め勞働社會に不平の聲を聞きたることなきのみならず人民皆其堵に安んじて世界の金銀勢に變動ありしことなど夢にだに知らざるが如し然るに之に反して歐米の金貨國は何れも近來非常の困難に陷らざるものなく物價は日に益す下落し商賣は振はず銀行は破產し商店製造場は分散し勞働社會は一般に仕事なきに苦しむ等通貨の騰貴より生ずる有らゆる徵候は皆現はれて判然たり今若し公平なる裁判官をして金銀孰れか通貨として最も適當なる性質を具ふるやを判斷せしめたらば二者の孰れに團扇を揚ぐ可きや吾輩故らに爰に答へざるも讀者の既に知る所ならん斯の如く事實の爭ふ可らざるものあるにも拘はらず金貨論者が金の騰貴より生じたる災をば悉く銀の罪に歸し頻りに廢銀說を唱へて止まざるは誠に不可思議千萬と云はざる可らず而して又松方伯が斯の如き見易き事實の近く日本支那に存在するをば更に顧みる所なく却て歐米の黃金富豪家が世界を犧牲にして自家の私利を謀らんが爲めに竊に一種の學者政治家をして主張せしむる說を信仰するは是れ又誠に不思議の至りと云ふ可けれ

今日爲替相場の下落しつゝあるは支那帝國の爲めには無上の幸にして此際大に木綿絹物の製造を興し又國內無數の鐵鑛を開て剛鐵物の製造を始め歐米諸國と競爭せば輸入品の數量を殺減して大に國の利益となる可きは必然なれども惜ひ哉支那の文明は未だ斯る大企圖を成就せしむるの地位に達せず且つ人民の性質遲鈍にして經濟上の利益を收るに敏ならざれば恐らくは今日の好機會を空ふすることならんなれども之に反して日本は充分に此機を利して自國の繁榮を致すの力あるものなり該國には既に製造所あり鐵道あり其事業の發達、固より支那の比に非ざれば目下の勢に乘じ奮起して內國の工業を盛にせば必ず非常の利益を博するに相違ある可らず然るに何を苦んで日本は今日わざ〳〵金貨國と爲りて此得難き好機會を失はんとするか吾輩は更に其理由を了解すること能はざるなり或は印度の例に傚はんと欲するものならんか印度政府は年々英國に向け多額の金貨を仕拂ふの義務あり爲替相場下落の爲めに從來の租稅にては到底これを滯なく支辨するを得ざるを以て已を得ず留貨に人爲價格を附して金貨國の姿と爲りたるものなれども日本には固より斯る事情の存することなければ敢て印度政府の窮策を學ぶの必要ある可らず之を要するに日本なり支那なり今日既に銀を本位と爲す國々が金價騰貴の際に臨んで故らに金本位に移らんとするは經濟の原則に照して策の最も愚且拙なるものなりと吾輩の確信して疑はざる所なり

官報

○遞信省告示第二百十八號

來ル十六日ヨリ左ノ郵便受取所ニ於テ小包郵便ヲ取扱ハシム

明治二十六年九

國名	市郡名
武藏國	横濱市
相模國	三浦郡
相模國	三浦郡
相模國	三浦郡
讃岐國	高松市
讃岐國	高松市
讃岐國	高松市
下野國	河內郡
下野國	河內郡
信濃國	東筑摩郡
信濃國	上水內郡

雜報

○歐米貯蓄銀行の

ふ所に從へば歐洲列國

國、伊太利及び佛國の

十三億八千三百萬弗な

三の內六百四十六行の

の報告を合算すれば十

國全國の貯蓄金高を合

るに足るべし墺地利の

銀行の貯蓄高は五億三

千九百萬弗は右米國六

ると五億六千三百萬弗

ると僅か千三百萬弗な

○不動產恃むに足

產を抵當として專ら貸

家は之を以て最も安全

經驗を重ぬるに從つて

行條例を以て之を制限

るにも拘はらず本年南

の多くは之を犯して其

りしものゝ如し殊に一

る新都會に於ては一

動產の價格も大に下落

も據なく破產するに

を賣買して投機の利を

立したるもあり是等け

事なることを得る筈な

が爲めに大に困難を增

○敗德者の出づる

ては世間一般の人々よ

收賄事件を詳記し目下

廷の日を待て之を知る

他の行爲なきは信じて

立ちて賄賂を貪りたる

等は充分調査を遂げ其

惑を解かざるべから

は勿論の事なれども近

類の人々數多入黨し來

風評を流したる人も少

由黨の信用を傷くる者

ずと同黨員は物語れり

○日墨間航路創開

撿して歸朝したる稙居

同國との間に航路を開

も屢々周旋する所あり

汽船會社に命じ相當の

港と布哇、日本、支那、